Ⅴ　実践事例（中学校の取組）

全学年　職場体験学習を核として三年間の系統的な学びをデザイン！

－ 実態分析を踏まえた目標や体験プログラムの設定 －

日南市立細田中学校

1　学校や生徒の状況

○ 各学年１クラスの小規模校である。
○ 生徒数が少なく人間関係が固定化されており、視野を広げたりコミュニケーションスキルを高めたりする必要がある。
○ 保護者は、自分の個性を踏まえた上で、失敗をおそれずチャレンジしていく姿勢を身に付けて欲しいと願っている。

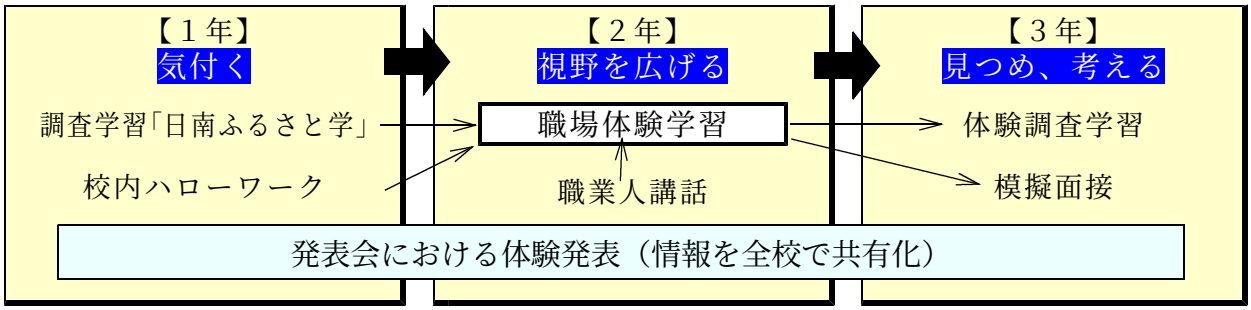
2　活用したい教育資源

○ 学校を取り巻く山村・漁村・農村としての特色や自然の他、以下の資源を活用する。
- 大堂津漁港
- 校区内の大規模自動車部品工場
- 大堂津地区の醤油醸造所や焼酎醸造所
- 大窪地区の柑橘栽培農園
- 日南市商工会青年部

3　本校におけるキャリア教育の構想

地域や学校学級集団の中にいる自分の役割や生き方を考える体験的な学びを通して、必要な情報やルール・マナーを知り、またコミュニケーションスキルを身に付ける中で、生徒が自分の特徴を理解し、将来を見据えた目標をもって、社会に貢献し、自己実現することができる能力や態度を育成する。

職場体験活動を中核とした三年間の体験プログラム



4　実践事例の概要（特色、位置付け）

これまで行ってきた総合的な学習の時間の内容や行事、体験活動などをキャリア教育の視点から見直し、新たに三か年間の系統的な学びをデザインしていくまでの手順と、各学年の体験内容の概要を紹介していきます。

日南ふるさと学の様子

【各学年における体験】

一年
■日南ふるさと学：　ふるさとの良さと働く意義について気付きます。
■校内ハローワーク：　それぞれの職業に必要な資質について気付きます。

二年
■職場体験学習：　体験をもとに働く意義や生き方について視野を広げます。
■職業人講話：　職業人の話から、働く意義や生き方について視野を広げます。

三年
■体験調査学習：　自分の関心のある地域の課題について探究していく活動を通して自分は何ができるのか見つめ、考えます。
■模擬面接：　将来の夢実現のために必要なことを見つめ、考えます。

5　グランドデザイン作成までの手順

(1) 実態分析とキャリア教育目標の設定

校内においてキャリア教育の充実を図っていくためには、ワークショップ形式で全職員がコミュニケーションをとりながら意識を高め、生徒の実態や既存の教育資源の分析作業を通して、キャリア教育目標を設定していくことが大切である。

資料１　保護者や地域の願い

次のような人間になって欲しい ☆ 自分に自信をもつ ☆ 多様な個性を受け入れる ☆ 意思表示をはっきりとする ☆ 失敗をおそれず、何事にもチャレンジする

①　保護者や地域の願い

学校評価アンケートの内容や学級懇談等で保護者から出される話などをもとに、保護者や地域の願いは何なのかを検討し、資料１のようにまとめた。

保護者や地域人材と連携しながらキャリア教育を推進していくためには、こうした願いを踏まえた目標を設定していく必要がある。

②　生徒の実態分析

生徒たちのキャリア発達において真に有用な取組内容を構築するためには、生徒の実態分析に基づいた目標を設定することが大切である。

進路希望アンケートの記述内容や資料２の「キャリア教育アンケート」結果をもとに生徒の実態を把握した。

なお、このアンケートについては、細田中学校区の細田小学校、大堂津小学校、大窪小学校でも同様に実施し、後で比較検討したり、合同研修で利用したりできるようにした。

資料２　キャリア教育アンケート

キャリア教育アンケート　　細田中学校

名前（　　）

○ これはテストではありません。あなたの生活のようすをふりかえって、あてはまる番号に、○をしてください。

4：いつもしている　3：ときどきしている　2：あまりしていない　1：ほとんどしていない

郷土愛	※　地域の特色やよさがわかり、愛着をもって地域の自然や人と関わろうとしていますか。	4　3　2　1
社会形成　人間関係形成	①　友達や家の人の意見をきくとき、その人の考えや気持ちを受け止めようと考えながら聞いていますか。	4　3　2　1
	②　相手が理解しやすいように工夫しながら、自分の考えや気持ちを伝えようとしていますか。	4　3　2　1
	③　自分から役割や仕事を見つけたり、分担したりしながら、周囲と力を合わせて行動しようとしていますか。	4　3　2　1

※「中学校キャリア教育の手引き」(平成23年3月文部科学省) ｐ６４参照

③　キャリア教育目標の設定へ

上述した①・②の結果をもとに、本校の生徒の現状を洗い出し、まず最初に「目指すべき生徒の姿」を全職員で考え、本校で育成したい能力や態度について検討した。

（➡「宮崎県キャリア教育ガイドライン」ｐ１６参照）

次に、「現状」や「目指すべき生徒の姿」をもとに、生徒に「身に付けさせたい力」を洗い出して整理した。（➡「宮崎県キャリア教育ガイドライン」ｐ１７参照）

そして最後に、各学年の生徒の実態にもとづいた学年ごとのキャリア教育目標を設定した。

職員による作業の様子

(2) 核となる体験活動の吟味から年間指導計画の作成へ

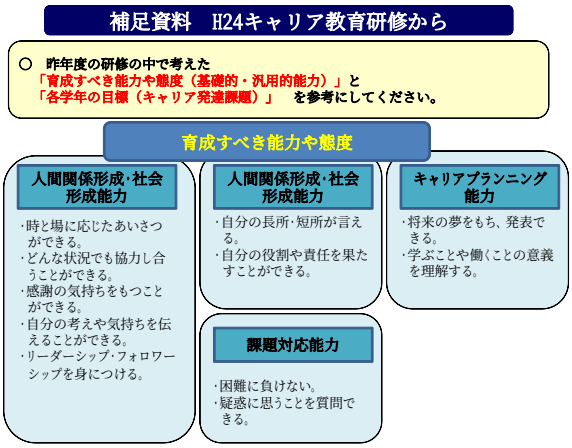
以上のように設定した目標にせまるため、これまで本校が行ってきた教育活動を中心に、本校のキャリア教育推進の「核となる体験活動」を学年ごとに吟味し、その体験活動に関連のある教科や領域等の内容をキャリア教育の「断片」としてつむいでいきながら指導計画を再構築していく作業を行った。

この作業（研修）によって全教職員の共通理解が深まり、それぞれの実践においてキャリア教育の視点を意識した指導を行うことができるのではないかと考える。

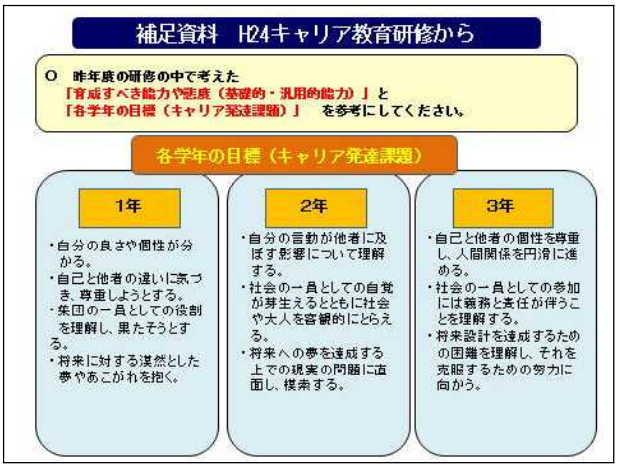
なお、こうした作業を取り入れた研修やキャリア教育の理論研修は、夏季休業中に細田校区の小・中学校４校合同で実施することとし、キャリア教育に対する共通理解を深めるとともに、情報交換等による各校の相互理解を図る機会とした。

下の資料３～６は、本年度の上記研修で活用したシートである。

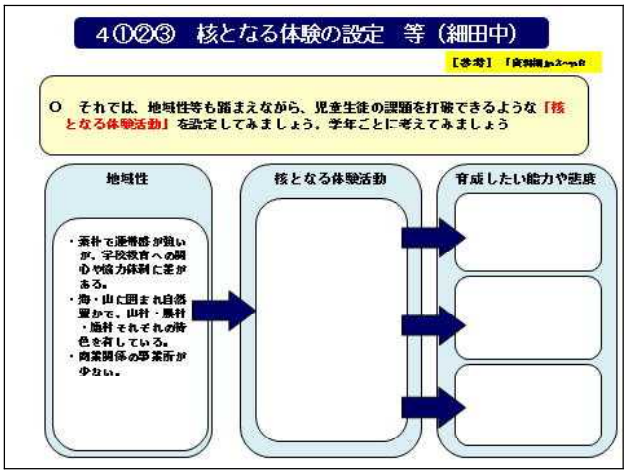
資料３　理論研修場面での活用シート



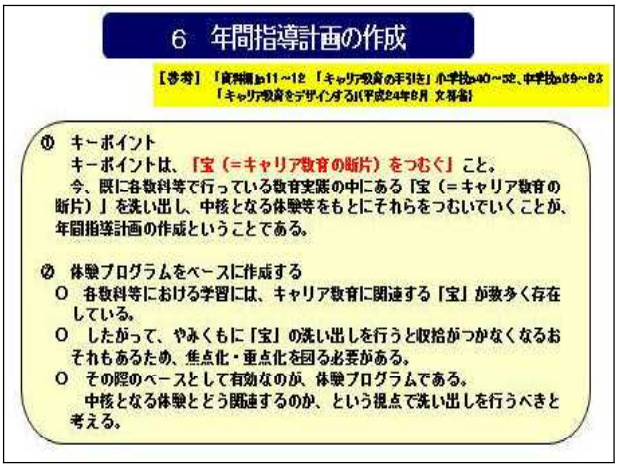
資料４　目標設定場面での活用シート



資料５　核となる体験設定場面での活用シート

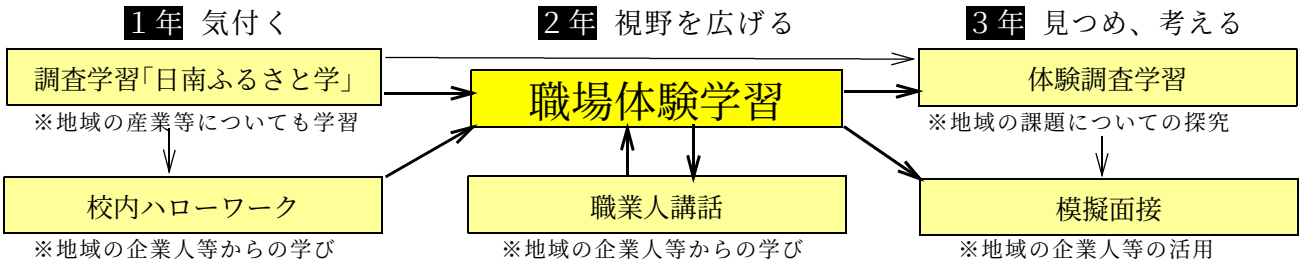


資料６　年間指導計画作成場面での活用シート



① 核となる体験活動の系統（グランドデザイン）

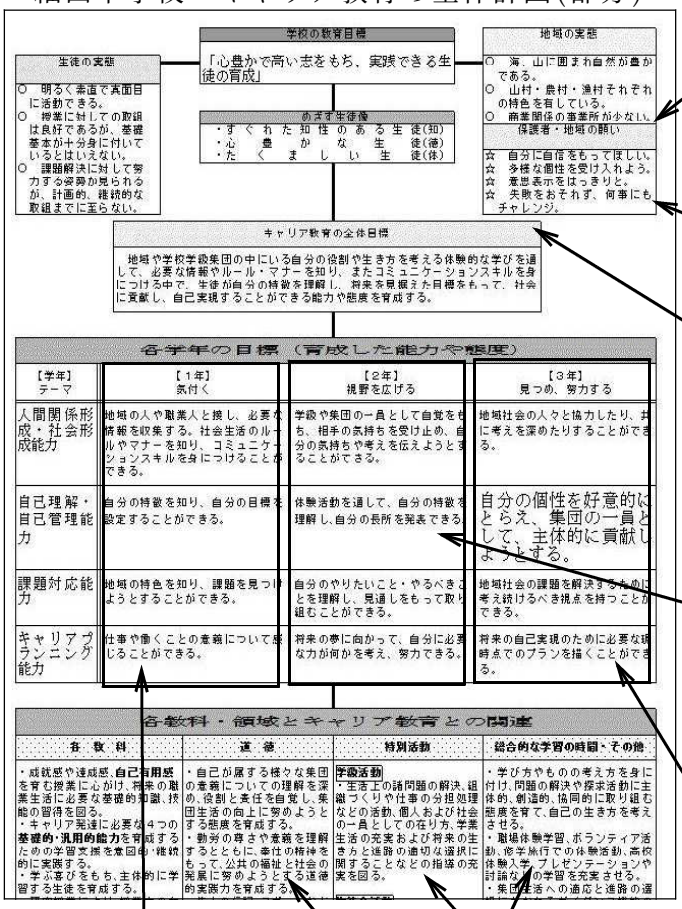
以上の作業によって再構築した核となる体験の系統は、以下のとおりである。



② 全体計画と年間指導計画（一部）

前述してきた目標の設定から核となる体験活動の設定までのグランドデザインを具体化したものが、「全体計画」や「年間指導計画」であるが、その主な関連等について、以下に示す。

細田中学校　キャリア教育の全体計画(部分)



※ 上記「５(1)①」より

次のような人間になって欲しい
☆ 自分に自信をもつ
☆ 多様な個性を受け入れる
☆ 意思表示をはっきりとする
☆ 失敗をおそれず、何事にもチャレンジする

※ 上記「５(1)②・③」より

地域や学校学級集団の中にいる自分の役割や生き方を考える体験的な学びを通して、必要な情報やルール・マナーを知り、またコミュニケーションスキルを身に付ける中で、生徒が自分の特徴を理解し、将来を見据えた目標をもって、社会に貢献し、自己実現することができる能力や態度を育成する。

第２学年の目標

人間関係形成能力･社会形成能力 学級や集団の一員として自覚をもち、相手の気持ちを受けとめ、自分の気持ちや考えを伝えようとする。	自己理解･自己管理能力 体験活動を通して、自分の特徴を理解し、自分の長所を発表できる。
課題対応能力 自分のやりたいこと・やるべきことを理解し、見通しをもって取り組むことができる。	キャリアプランニング能力 将来の夢に向かって、自分に必要な力が何かを考え、努力する。

第３学年の目標

人間関係形成能力･社会形成能力 地域社会の人々と協力したり、共に考えを深めたりすることができる。	自己理解･自己管理能力 自分の個性を好意的にとらえ、集団の一員として、主体的に貢献しようとする。
課題対応能力 地域社会の課題を解決するために考え続けるべき視点を持つことができる。	キャリアプランニング能力 将来の自己実現のために必要な現時点でのプランを描くことができる。

第１学年キャリア教育年間指導計画（部分）

１　学年の目標　　学年テーマ：気付く

次の４つの能力や態度を身に付けさせる。

人間関係形成能力・社会形成能力 地域の人や職業人と接し、必要な情報を収集する。社会生活のルールやマナーを知り、コミュニケーションスキルを身につけることができる。	自己理解・自己管理能力 自分の特徴を知り、自分の目標を設定することができる。
課題対応能力 地域の特色を知り、課題を見つけようとする。	キャリアプランニング能力 仕事や働くことの意義について感じることができる。

２　指導計画　○…人間関係形成・社会形成能力、●…自己理解・自己管理能力、□…課題対応能力、■…キャリアプランニング能力

月	関連行事	総合的な学習の時間	各教科	道　徳	特別活動
6		○●名刺交換 ○自己紹介の仕方			なんだろう」
7		□班別活動 □調べ学習			
8	日南ふるさと学	○■ふるさとの職業人の講話 ・調査学習			

6　活動の実際

第一学年

学　年	第１学年	教科・領域	総合的な学習の時間
活動名	日南ふるさと学		
内　容	ふるさとである日南を知るために、飫肥地区と油津地区、大堂津地区について調査活動を行う。その際に、平成２６年度は地元の大堂津地区では老舗の醤油醸造所である「谷口醸造」と焼酎醸造所である「宮田本店」を訪問した。そこでは、それぞれの歴史を調べるとともに、その伝統を受け継いでいる方からの話を聞き、改めてふるさとの良さについて気付くとともに、「働くとは何か」「生きがいとは何か」を考えるきっかけとした。		

学　年	第１学年	教科・領域	学級活動
活動名	校内ハローワーク		
内　容	学級活動で、さまざま職業について調べていく学習を行った上で、実際に複数の職業の方に業務内容や働く上で大切なことについて話していただく。平成２６年度は日南商工会議所青年部から３名の方を講師としてお招きし、講話を聞いた後、小グループに分かれ、質問をしたり、講師と対話したりしながら、「働くとは何か」を考えさせた。そして、２年での職場体験学習で何を学ぶのか、何を感じ取りにいくのかを考えさせ、中核となる「職場体験学習」への「つながり」をつくった。		

第二学年

学　年	第２学年	教科・領域	総合的な学習の時間
活動名	職場体験学習		
内　容	学級活動における「人はなぜ学ぶのだろう」「人はなぜ働くのだろう」と並行して、準備を進めていく。将来の希望の職種や自分が体験してみたい職種を選択し、事業所を決定する。体験学習を実施するにあたっては、単に体験をしてくるのではなく、事業所で働く人の「どのようなところがプロフェッショナルなのか」、「職業人としてどのような生き方をしているのか」を調べる・感じ取るように指導する。また、各事業所への依頼文書には、生徒一人一人に書かせた履歴書（自己ＰＲ）も同封する。履歴書の中には「自分の課題」や職場体験学習で「鍛えてほしいこと」も盛り込み、体験学習の中でそれぞれの事業所の方に生徒の特長と、指導をしていただくうえでのポイントを示すようにしている。事後指導ではお礼状の指導を国語科と連携して行うとともに、それぞれの事業所で体験したことを全員が発表し、感じたことを共有できるようにする。その後グループごとに発表内容や方法を工夫・検討しながら、文化祭で保護者、地域に向けて発表する。平成２６年度はプレゼンテーションソフトを利用し、途中で寸劇を取り入れながら、職場体験学習で学んだことを発表した。		

第二学年

学　年	第２学年	教科・領域	学級活動
活動名	職業人から学ぼう		
内　容	文化祭で職場体験学習で学んだことを発信した後、２月の立志式を節目に、改めて自分の生き方やこれからの進路選択について考える。平成２６年度は日南商工会議所青年部から５名の方を講師としてお招きし、それぞれの仕事に対する情熱、やりがいや夢、失敗などの話を聞いた後、小グループに分かれ、講師やなかまとの会話を通して、「働くとは何か」を考えさせた。あいさつや返事などのコミュニケーションの基本がいかに大事であるか、仲間づくりが充実した仕事をしていく上で重要であることなどを感じ取りながら、改めて「自分の夢は何か」、「努力すべきことは何か」を考えていく。そして、立志式での決意発表、仲間との絆づくりを経て、最上級生になり、夢実現に向けて努力しようとする意識をもたせる。		

第三学年

学　年	第３学年	教科・領域	総合的な学習の時間
活動名	体験探究活動		
内　容	これまでの各教科・各領域での学習、そしてこれまでの総合的な学習の時間で培ったものを総動員して、自分が解決してみたいと考えた課題について探究する学習を行った。平成２６年度は「日南市の未来」という大きなテーマのもと、「地域防災」、「税金」、「スポーツと行政」、「少子高齢・福祉」について、体験や探究活動を行い、自分の考えを文化祭で発表した。		

学　年	第３学年	教科・領域	学級活動
活動名	模擬面接		
内　容	卒業後の進路に向けて、自分磨きを行う中で、学級活動では自分自身を振り返り、「自己アピール」をさせる。上級学校への進学に向けての模擬面接として職業人（面接のプロ）を講師として面接官役をお願いし、面接を振り返りながら、企業が求めている人材、今社会が必要としている人材は何なのかを考える。平成２６年度はアシスト企業に登録されているダーバン宮崎ソーイング(株)と BRING(株)にご協力いただいた。 最後に「『自分は何になるのか』『何をやりたいのか』をしっかりもってほしい。『自分はどんな能力をもっているのか』を考え、その能力に磨きをかけてほしい」とアドバイスをいただき、生徒の目の色が変わった。		

１年　地域を愛する心を育みながらキャリア発達を促す三松の学び！

－ 体験活動と各教科等の学習とのつむぎ －

小林市立三松中学校

１　学校や生徒の状況

○　国道沿いに位置し、大型店舗等の商業や工業施設が立ち並ぶ地域に立地する、生徒数226名の中規模校である。

○　地区内には小・中学校が各１校しかないため人間関係が固定化しがちで、幅広く人間関係を構築していこうとする態度が十分ではない。

○　自ら積極的に物事に関わり、主体的に行動することを苦手とする生徒が多く、生き方や進路に関する意識・関心も高いとは言えない。

２　活用したい教育資源

○　ＰＴＡの協力

○　地域の学校支援体制

○　地域の事業所

○　継承されてきた郷土芸能の「神楽」

○　地域の産業

３　本校におけるキャリア教育の構想

地域社会との交流を重ねながら、人との触れ合いや自分自身を見つめる体験的な学習を通して、目標の達成や課題解決に主体的に取り組み、よりよい自分を求めて粘り強く努力することができる能力や態度を育成するためのキャリア教育を推進する。

【１年】小林の自然を知る	【２年】小林の魅力を知る	【３年】小林の未来を考える
・国道沿いの花壇植栽	・伝統芸能発表	・職業人講話
・宿泊農業体験学習	・職場体験学習	・小林未来予想図
・職場訪問	・修学旅行	
・小林ＰＲプロジェクト		

４　実践事例の概要（特色、位置付け）

これまで行ってきた総合的な学習の時間の内容や行事、体験活動などをキャリア教育の視点から見直し、新たな体験プログラムとして再構成することにより、３か年間の系統的なキャリア教育をデザインした流れを紹介していきます。

地域性・生徒の実態

育成したい能力や態度

・自分のよさや個性を理解し、それを伸ばしていこうとする。
・農業体験や職場訪問等を通し、地域の人や職業人と接することにより、様々な情報を収集できる。
・自己と他者の違いに気付き、尊重しようとする。
・自分自身の集団の一員としての役割を理解し、その役割を果たそうとする。
・将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心を高める。

『宝』の洗い出し、検討・追加

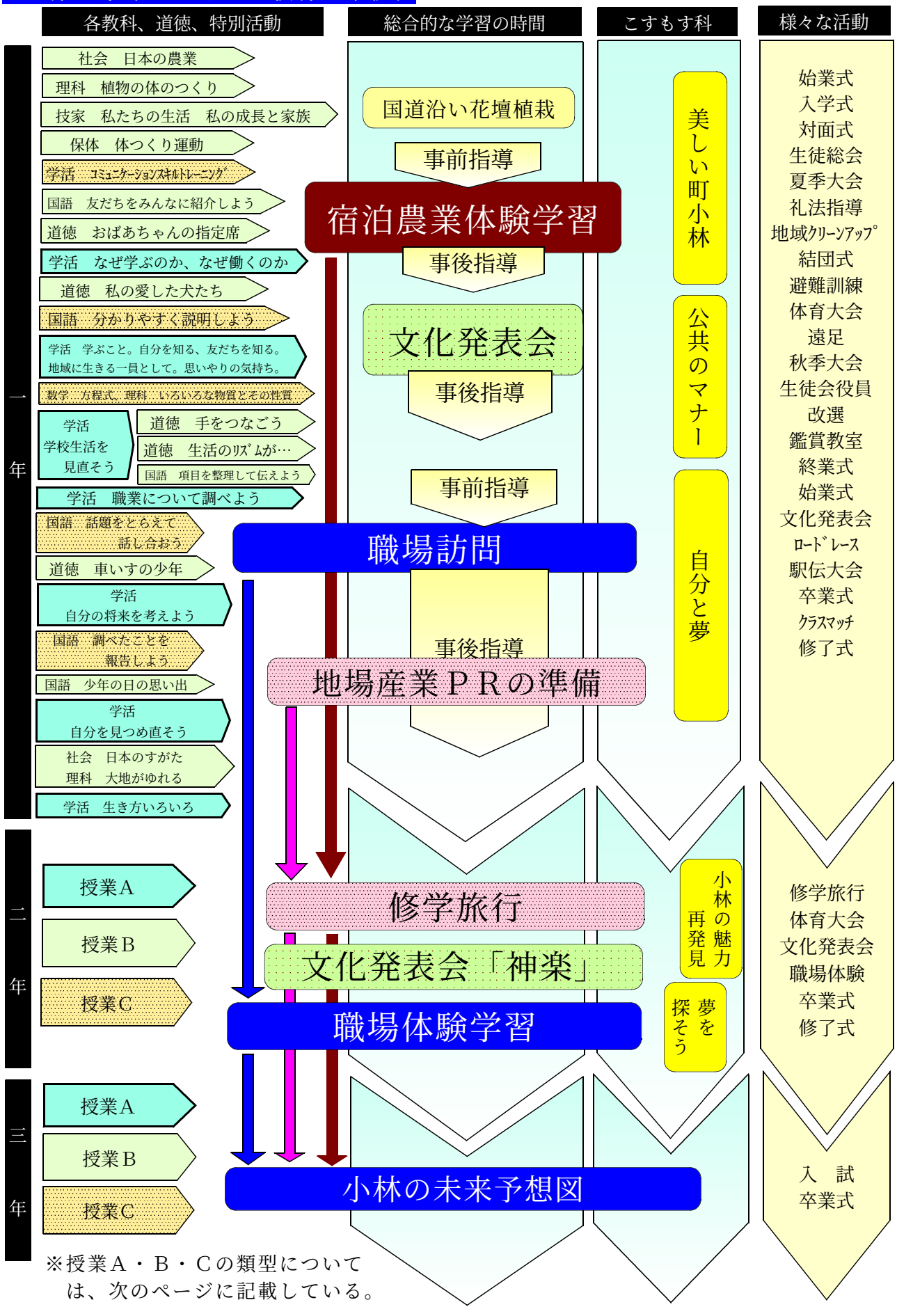
地域の教育資源　／　学校での教育活動全般

核となる体験活動の設定

○　農業体験
○　職場訪問
○　職場体験
○　地場産業PR体験
○　伝統芸能(神楽)

三か年を見通した系統的な体験プログラムの作成

5　第１学年のキャリア教育の系統性



※授業Ａ・Ｂ・Ｃの類型については、次のページに記載している。

※　キャリア教育の視点を踏まえた授業の類型について

授業A　学習内容そのものがキャリア教育である授業

例　・自己の生き方を考えさせるねらいを含んだ「総合的な学習の時間」
　　・働く意義などについて学ぶ「学級活動」など

授業B　核となる体験や行事に対する「宝（＝キャリア教育の断片）」としての授業

例　・職場体験学習の前に実施する、礼儀を中心価値とした「道徳」
　　・職場体験学習の後に実施する、お礼状の書き方についての「国語科」
　　・工場見学や農業体験の前に実施する地域の産業についての「社会科」など

授業C　学校の「キャリア教育目標」や「育成したい能力や態度」を踏まえた授業

例　・「コミュニケーション力」を高める言語活動を取り入れた教科の授業
　　・「課題解決能力」を高めるための学習過程を取り入れた教科の授業　など

※「こすもす科」について

「こすもす科」は、小林市全体の統一性・系統性を視点として、「小林市民として必要とされる資質や能力を育てる」ことを目指して教育内容を構成し、生活科及び総合的な学習の時間の中に位置付けている。「こすもす科」は職業観や勤労観だけで出なく、「人生観・価値観の基礎を養う」といった広い視野に立って教育内容を系統的に編成していくこととし、生活科における「自立への基礎」及び総合的な学習の時間の「自己の生き方について考える」という点を育成していく性質を有するものである。

6　宿泊農業体験とその事前・事後指導

(1) 目的等

学年	1学年(90名)	支援組織	北きりしま田舎物語推進協議会	行政機関との連携	市からの助成あり
区分・時数	特別活動　学校行事　勤労生産・奉仕的行事（11時間）				
活動の目的	○農業体験を通して、勤労の大切さと、自然を感じとる機会とする。 ○日本の食を支える農業の大切さや自己の将来について考える機会とする。 ○集団宿泊体験を通して社会性を身に付ける機会とする。				

育成したい能力や態度			
人間関係形成 社会形成能力	自己理解 自己管理能力	課題対応能力	キャリア プランニング能力
・自分の良さや個性を理解し、それを伸ばしていこうとする。 ・農業体験学習を通し、地域の人や職業人と接することで様々な情報を収集できる。	・自己と他者との違いに気付き、尊重しようとする。	・自分自身の集団の一員としての役割を理解し、それを果たそうとする。	・将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める。

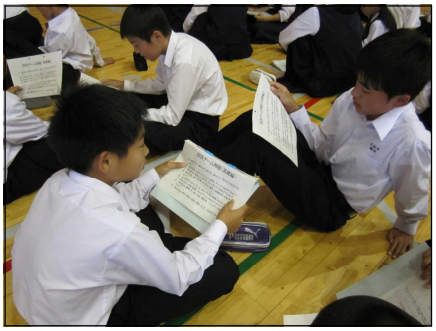
その他	(1) 費用　自己負担あり（市補助あり4,500円） (2) 保険　国内傷害保険に調整機関を通して加入。 (3) 送迎　各配当農家自家用車	受入農家数	１７農家

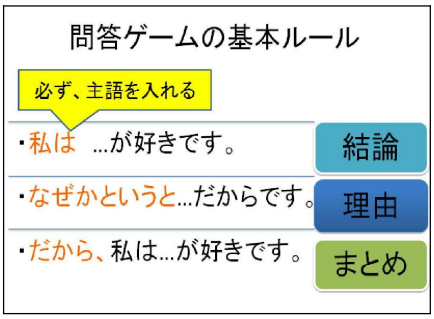
(2) 事前の活動

主な活動内容	留意点
２１日前　農作業体験のオリエンテーション （社会科　「日本の農業」授業含む） ２０日前　保護者向け案内及び参加農家アンケート 健康調査票、承諾書家庭配付 １８日前　健康調査票・承諾書提出締切 体験農家の決定と発表	○社会科担当による説明 ○受け入れ農家でできる体験内容の紹介をする。

１７日前　健康調査票・配慮事項入力 １６日前　全体指導（目的） 班別指導（活動内容、インタビュー内容） １５日前　健康調査票・緊急連絡先、班別名簿完成 １４日前　支援組織との打合わせ ※活動上配慮する生徒について １３日前　全体指導（礼法指導、コミュニケーションスキルトレーニング） 班別指導（インタビュー内容、質問事項確認） １０日前　宿泊農業体験しおり完成 ９日前　班活動（しおりに沿って指導） 前日　事前指導、班別事前指導（連絡体制等） 当日　宿泊農業体験	○食物アレルギー、動物アレルギー等の調査 ○アレルギー等の健康面の確認とスケジュール、緊急連絡体制等の確認 ○礼法指導等及び目的の再確認 ○日程、持参物、グループ活動の再確認。

コミュニケーションスキルトレーニング（コミスキＴＲ）の様子





(3) 当日の展開

活動の流れ	時間帯	活動の内容
【１日目】		
登校	8:30	※各農家の自家用車で移動農家ごとに始まりの会を実施（名札記入、自己紹介、作業内容説明）
始まりの会	9:00～ 9:30	
移動	9:30～10:15	
作業	10:40～12:00	○作業後、昼食づくりおよび食事
昼食	12:00～13:00	○インタビュー（インタビュー内容は事前に班ごとに考えておき、記録をする。）
作業	13:00～17:00	
入浴・夕食	17:00～19:30	○就寝前に反省会を行い、各自記録用紙に反省、感想を記入する。
反省会	21:30～22:00	
【２日目】		
起床	6:00	○　各農家ごとのスケジュールで活動
朝食	7:00～ 7:30	
作業	8:00～11:30	○　作業後、昼食づくりおよび食事
昼食	11:30～12:30	
作業	12:30～14:30	
反省会	14:30～14:45	
移動	14:45～15:30	※　農家の自家用車で移動
学校着	15:30	
終わりの会	15:30～16:30	○　北きりしま田舎物語推進協議会の話
解散	16:30	

始まりの会

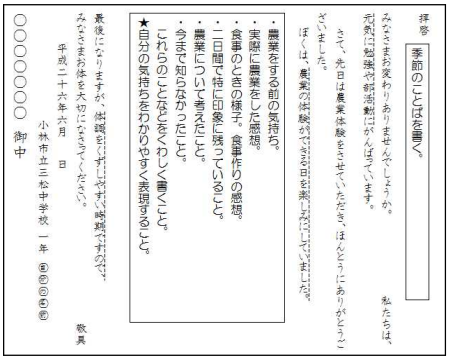
牛舎での作業

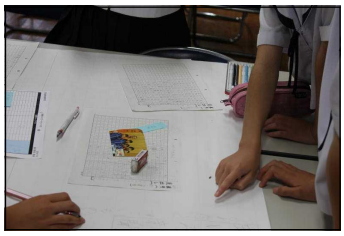
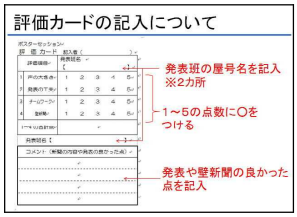
ぶどう園での作業

終わりの会

体験終了時

(4) 事後の活動内容

主な活動内容	留意点
① 体験活動のまとめ i 事後感想文 体験学習記録やインタビュー記録をもとに、目的と照らし合わせながら、感想文を書く。	○国語科担当による作文指導
農業体験を忘れない 僕は、農業体験を通して主に二つのことを学びました。一つは、ブルーベリーは土で育たないということです。土だけでも育たないことはありませんが、実はならないそうです。だから、土の上に木くずや米のもみがらなどをひいて育てるそうです。今までそのようなことは知らず、とても驚きました。もう一つは、僕たちが食べ物を食べられるのは、多くの人々の働きのおかげということです。僕が行った農家では「食べ物を食べる前に天や土の恵みと多くの人々の働きに感謝して命の元を謹んでいただいています。」とおっしゃっていました。最初は、驚いたけど、その意味を話してもらった時、「なるほど。たしかにその通りだ。」と思いました。農業体験の後、家で夕食を食べる時、農家さんの話を思い出して、これからは、食べられるのが当り前ではなく、しっかりと感謝して食べ物を食べたいと思いました。 生徒作文　男子	
※　作文は、校内での掲示、通信への掲載、新聞への投稿等により、振り返りの共有化を図る。	○ワークシートの準備と実態に応じた個別指導
ii お礼状 書式例をもとに、お礼状を書く。 	○国語科担当による作文指導及び封筒宛名書き指導を行う。 ○お礼状は、郵送により各農家へ届ける。

iii　壁新聞づくり　（体験農家ごとに分かれて班活動） ・新聞名の決定　・記事や見出しの決定 ・レイアウトの考案　・記事の下書き・清書 	○国語科担当による壁新聞やポスター作りのガイダンス ○活動の記録やインタビューシートをもとにした記事、見出し、記録写真の選択
②　発表活動 i　ポスターセッションの準備 ・実行委員会の開催（放課後）　・発表練習（２時間） ii　ポスターセッション ・全体指導(ルール確認)　・流れ(発表→質疑応答→評価) ・自己評価 ・まとめ  iii　文化発表会での発表 ・学年代表としての発表 	○学年生徒会による運営 ○ポスターセッションのルール確認とその徹底 ○コンクール形式での実施上位３グループは文化発表会での代表発表 ○発表者の振り返りに役立つ評価カードへのコメント欄設置 ○新聞にまとめた内容をもとにしたプレゼンテーション ○発表内容を熟知した上での原稿を用いない発表

7　成果と課題

(1) 成果と評価

学校生活はもとより、日常生活においても経験できない貴重な体験を行うことができ、心身共に満たされ、とても充実した２日間を送ることができた。

また、民泊受入家庭の方々の温かさに包まれた時間を過ごすと共に、農業体験に御協力いただいた方々とのふれあいから、人とのつながりの大切さを実感することもできたようである。

(2) 課題と今後の展望

本体験学習は、「年度末に実施する予定の職場訪問」、「次学年での修学旅行、職場体験学習、立志式」などの体験的な活動へとつながるものであり、生徒たちのキャリア発達を促していく上で非常に重要な取組として位置付けている。

これらの各体験を、それぞれ単発の行事的な体験にとどめるのではなく、日常と行事、そして行事と行事をつなげ、それぞれがもつ価値を相乗的に高めていくことにより、望ましい勤労観や職業観の醸成を図っていきたい。

2年　町の思いを背負った観光特使で地域貢献！

－ 修学旅行先でのＰＲ体験を核としたキャリア教育 －

五ヶ瀬町立鞍岡中学校

1　学校や生徒の状況

○　中山間地域に立地する各学年１クラスの小規模校であるが、「G授業」として三ヶ所中との合同授業も実施している。

○　生徒は穏やかで落ち着いている。少人数での生活が日常的であるため、特に「人間関係形成能力」向上に力を入れてきた。

　今後は、将来設計などのキャリアプランニング能力の向上も必要である。

2　活用したい教育資源

○　豊かな自然や特産品(椎茸、茶など)

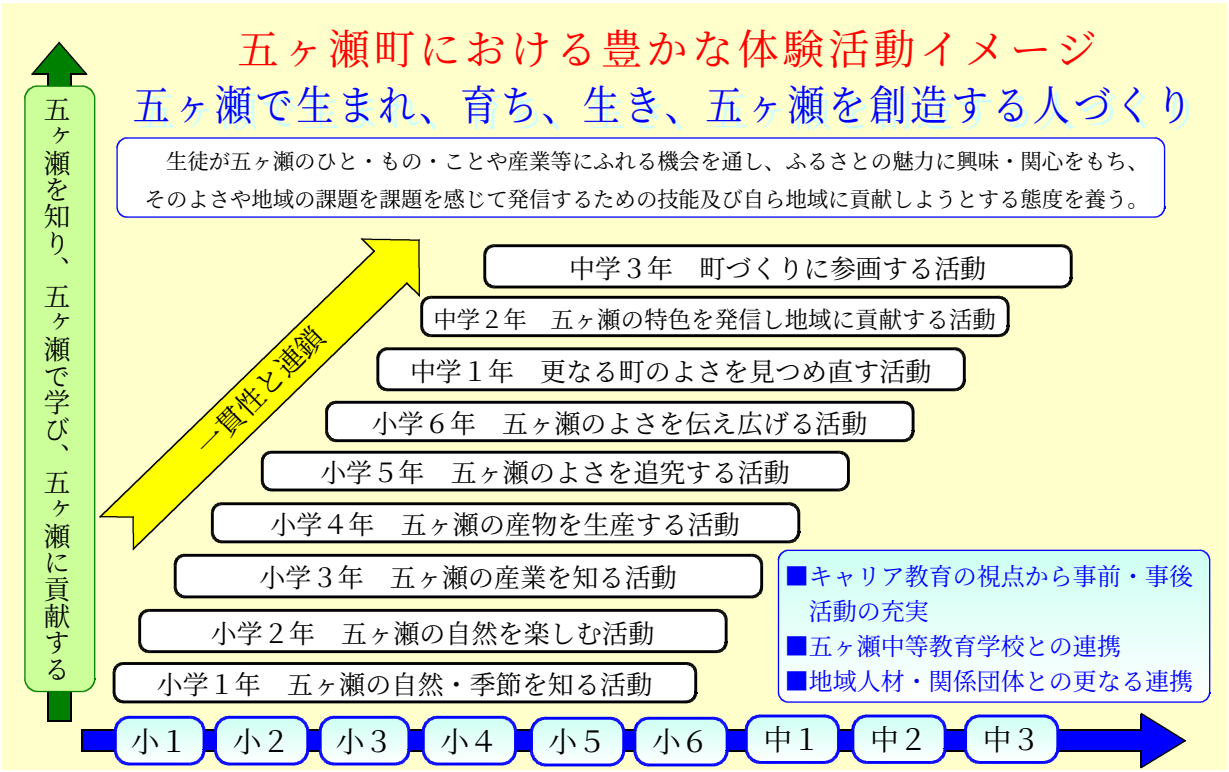
○　伝統芸能や文化（棒術、長刀など）

○　地域の人材

（役場、観光協会、伝統芸能保存会、産業従事者など）

○　修学旅行など町外での体験活動

3　本校（五ヶ瀬町）におけるキャリア教育の構想



4　実践事例の概要（特色、位置付け）

　中学２年生における、県外でのＰＲ体験を中核としたキャリア教育について紹介します。

　五ヶ瀬町では、全小中学校において「五ヶ瀬教育ビジョン」を基盤とした教育活動を展開しており、体験を核とした教育の充実を目指して小１から中３までの体験内容を体系化し、意図的、計画的な学びを深めていけるよう、その体制整備に努めています。

　中でも修学旅行におけるＰＲ体験は、小６からの学びが系統的につながるものであり、地域のよさを再発見し、地域社会における自分の役割を体感する絶好の学びの機会となっています。

修学旅行先でのＰＲ体験の様子

5　第２学年におけるキャリア教育の構想

(1) 生徒の実態と取組の基盤

①　生徒の実態

中山間地に位置する本町では、豊かな自然や文化などの恵まれた環境を有する反面、各学校とも児童生徒数が少なく、主に次のような課題が見られがちである。

ア　固定化した人間関係の中での生活であるため、外向的なコミュニケーションスキルが高まりにくい。
イ　学校を含む日常生活において、情報刺激や負荷場面が少ないため、様々な課題に対応する力や将来設計への意識が高まりにくい。

②　取組の基盤

将来、自立した社会人・職業人として活躍する人材となるためには、上記ア・イの課題解消が欠かせない。加えて本町の子どもたちは、中学卒業と同時に地元（親元）を離れる者も多いため、中学を卒業するまでの間にその解消を図る必要がある。

そこで、これらの課題を解消しながら生徒たちのキャリア発達を促していくため、まずは、本町独自の教育システムである「Ｇ授業」（複数の学校による集合学習）を基盤に据え（図１）、そこにキャリア教育の視点を加味しながら「町内外のひと・もの・こと」を活用したキャリア教育を構想した。（図２・図３）

図１　基盤としてのＧ授業

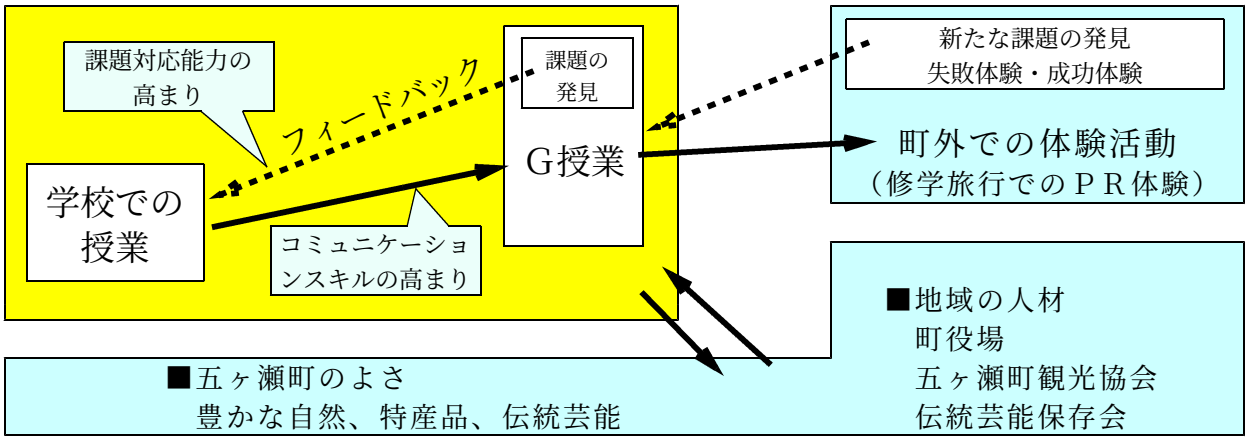


図３　町外体験の効果

図２　町内のひと・もの・ことの活用

(2) 第２学年におけるキャリア教育の構想

第２学年においては、上述の図１～３を基盤に、五ヶ瀬教育ビジョンによる共同指導体制を最大限に生かしながら、町内合同で実施する東京への修学旅行におけるＰＲ体験を中核に据えるキャリア教育を構想した。

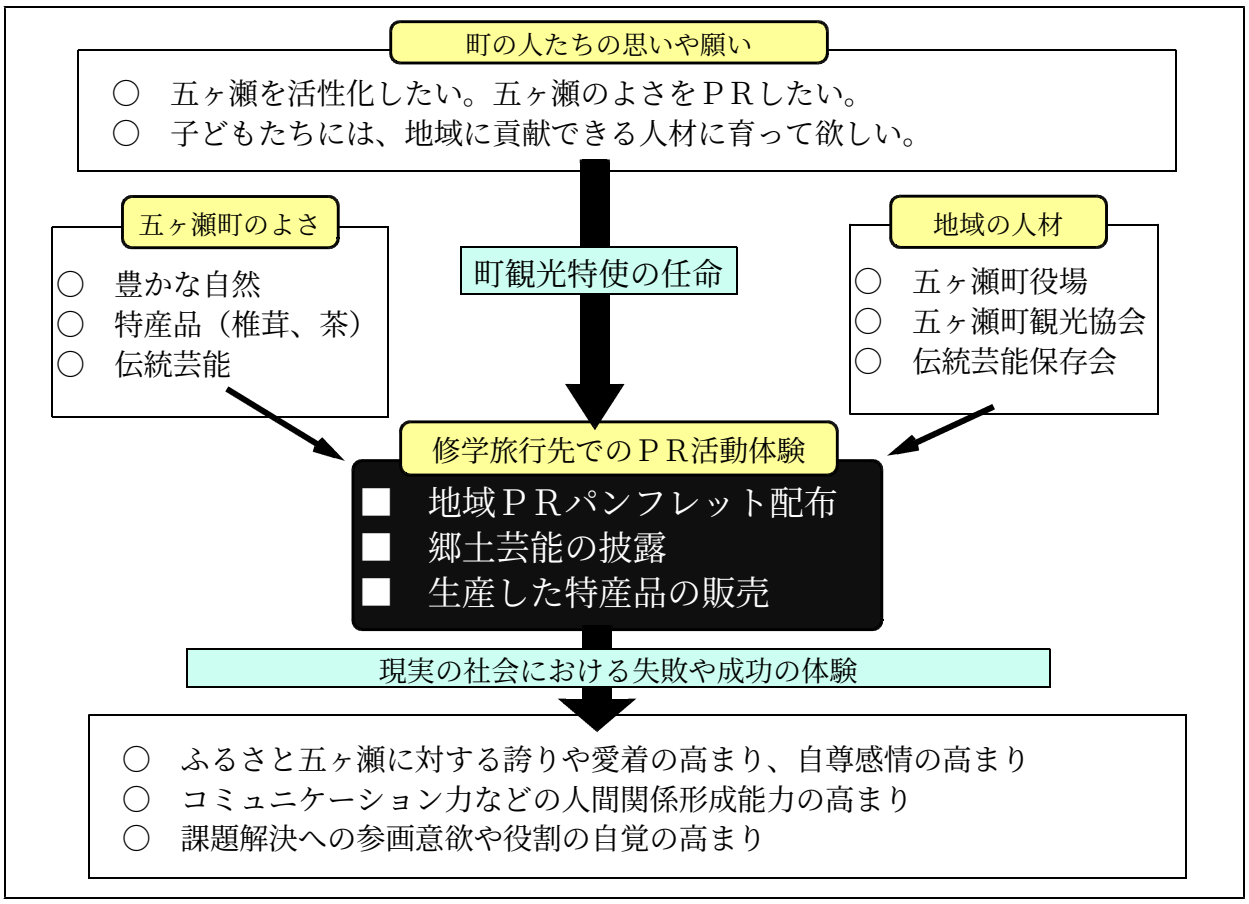
東京でのＰＲ体験の様子

町内では経験することのできない、生徒にとって未知なる大都会のフィールドで、しっかりとしたＰＲ活動を行わせるため、小学校から学び続けてきた中山間地五ヶ瀬町のよさをアピールすることによる「地域貢献」を柱に据えることとした。

都会でのＰＲに向けて「ふるさと五ヶ瀬のよさ」をあらためて捉えなおすには、地域の産業に生徒自らも主体的に関わりながら、地域の方々の思いや願いを体感することが欠かせない。こうした体感を踏まえてＰＲ内容を構築することは、立派な社会参画であり、地域貢献につながるものである。こうした準備から当日までの一連の学びを体験することは、生徒たちが将来における生き方や社会における自分の役割などについて考

える上で、大きな効果をもたらすものと考える。
　具体的なＰＲ体験の内容としては、「地域ＰＲのパンフレット配布」、「郷土芸能の披露」、「特産品生産・販売」の３つを位置付けた。より多くの学びを得ることができるよう、町役場や五ヶ瀬観光協会等の地域人材の協力も得るようにした。
　これらの構想を図式化したものが、次の図４である。

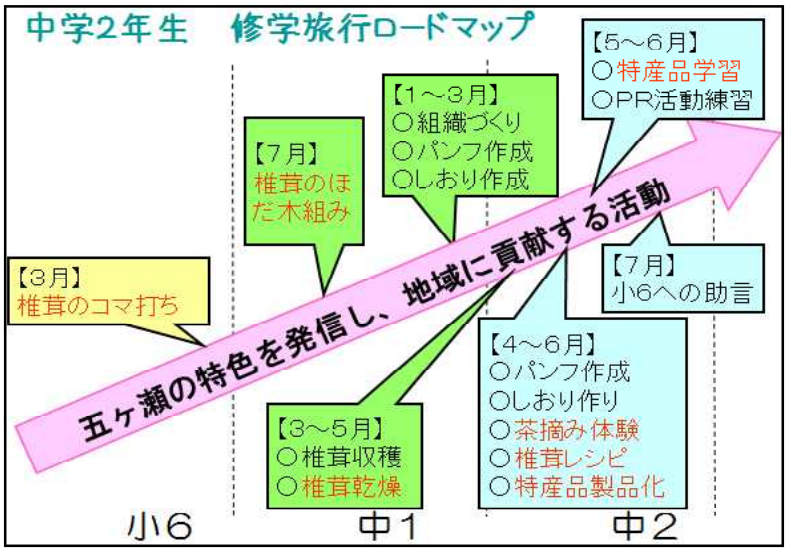
図４　修学旅行でのＰＲ体験を核とした第２学年のキャリア教育内容



　販売する特産品は、五ヶ瀬町の特産品である椎茸とお茶である。椎茸については、小学校６年でコマ打ちを行い、中学校１年でほだ木を組み立てるなど、自分たちで生産したものを収穫し、考案したレシピをつけて販売させており、小学校からの学びを系統だてている。（図５参照）

小学校６年でのコマ打ち体験

図５　小学校からの系統図



6　ＰＲ体験の実際

(1) 地域ＰＲのためのパンフレット制作

生徒たちは、小学校においてふるさと五ヶ瀬のよさ（特長）を追究した上で、１年時時の総合的な学習の時間において、再び地域を見つめ直す探究を行う。

主な学習内容は、五ヶ瀬の歴史・文化、産業や観光、特産品等の特色の追究であるが、調査等のフィールドワークにあたっては、各特色の成立要因を解明するだけでなく「中山間地五ヶ瀬の課題と向き合いながら、歴史・文化の継承や産業活性化への工夫や努力を重ねている地域の人たちの切実な思いや願い、使命感」などの体感、すなわち、「社会の中で、実際に課題と向き合っている大人の姿からの学び」を意識させることが、キャリア発達を促進するポイントとなる。

そこで、追究結果の表現機会を工夫することとし、従前の「文化祭での発表」を改め、修学旅行先においてＰＲするための手作りパンフレットを制作し、配布させることとした（資料１参照）。なお、制作にあたっては、地域のＮＰＯ法人「五ヶ瀬観光協会」へ協力依頼を行い、パンフレットの内容構成に対する助言を受けている。

資料１　生徒作成のパンフレット

(2) 地域ＰＲ活動と郷土芸能の披露

駅前でのパンフレット配布

修学旅行先の東京におけるＰＲ活動の場所は、板橋区ハッピーロード大山商店街である。約５００ｍの商店街に１日約３万人が往来するという、五ヶ瀬では体験することのできない、生徒にとっては未知なる体験フィールドである。

面識のない通行人に話しかけながら、作成したパンフレットを配布したり、特産品販売の特設ブース前で呼び込みを行ったりするとともに、習得した郷土芸能も披露するＰＲ体験である。

路上での郷土芸能披露

生徒たちは、多くの通行人に最初は戸惑いながらも、これまでに学んできた五ヶ瀬のよさや町民の思いを胸に積極的に声を出し、五ヶ瀬町をＰＲする姿が見られた。

また、郷土芸能の披露では、地域の伝統芸能保存会の方々に実技指導を受けた棒術（男子）と長刀（女子）を披露した。衣装の効果もあり、多くの通行人に足を止めて見ていただき、温かい拍手をもらったことは、生徒たちに大きな達成感をもたらした。また、当日駆けつけていただいた「関東五ヶ瀬　会」の方々から激励の言葉をいただくとともに、演舞を喜んで見ていただいたことも、生徒たちの自己有用感につながった。

(3) 特産品の販売体験

椎茸を選別する様子

特産品の販売体験を通して生徒たちのキャリア発達を促進するためには、単に販売時のコミュニケーションをさせるだけでなく、「五ヶ瀬の方々の思いがぎっしりとつまったすばらしい特産品を自分たちがＰＲするんだ！」といった「役割の自覚」や「地域貢献への意識」を高めておくことが大切である。

そこで今年度は、販売する物品についての理解を深め、実際のＰＲに生かしていけるよう、事前学習において次の活動を取り入れた。

まず、椎茸の生産や加工に直接関わる活動を取り入れた。小学校６年生時にコマ打ちし、自分たちで育ててきた椎茸を、地域の方々と一緒に収穫・加工することは、椎茸に対する理解や思いが格段に高まると考える。今後も小学校と連携しながら、自分たちの栽培したものを販売する流れを定着させていきたい。

生徒が考案した特産品キャラクター

次に、特産品の事前学習や試飲試食体験を行うことで、販売の際に、この体験に基づいて自信をもってＰＲしていけるようにした。また、五ヶ瀬観光協会や五ヶ瀬町椎茸振興会の方々を事前学習の講師として招き、特産品の特色、商品の選別・加工、販売時の呼び込みの方法等について専門的な見地からの指導を受けた。旅行当日も、特産品の販売ブースにおいて、販売活動に全面的に協力をいただいた。

また、学習してきたことをもとにして「椎茸・茶のキャラクター」を考案したり、特産品のレシピを作成させたりして、それを商品に添付して販売するなどの工夫を取り入れた。

町観光特使任命の様子

さらに、特産品への関わりを強くする取組として、町から五ヶ瀬町観光特使の任命を受けるというプロジェクトを企画した。町役場で行われた任命式では、町長から「ＰＲ活動をしながら何かを感じ取ってほしい。ふるさと五ヶ瀬のよいところ、足りないところを感じ取ってほしい。」と激励を受けた。町長にはＰＲ活動当日も現地に足を運んでいただき、生徒の自覚や意識高める上で大きな効果があった。

関東五ヶ瀬町人会との解散式

以上の取組は、事前学習の段階から新聞社の取材を受けて報道され、生徒に大きな自信をもたせることにつながった。

資料２　関東五ヶ瀬町人会の方からいただいたお礼の言葉

先月は、思いがけな〈東京でなつかしい棒術、長刀を拝見させていただきました。
ふるさと鞍岡の中学生が堂々と郷土芸能を披露して、気後れすることもな〈商店街でＰＲ活動をされている姿に感動いたしました。鞍岡を故郷にもつ者として、心から誇らし〈思いました。
頑張って〈だされた中学生の方々に感謝いたします。

7　考察

以上の取組を進めてきたが、キャリア教育の成果を的確に評価していくのは難しい。

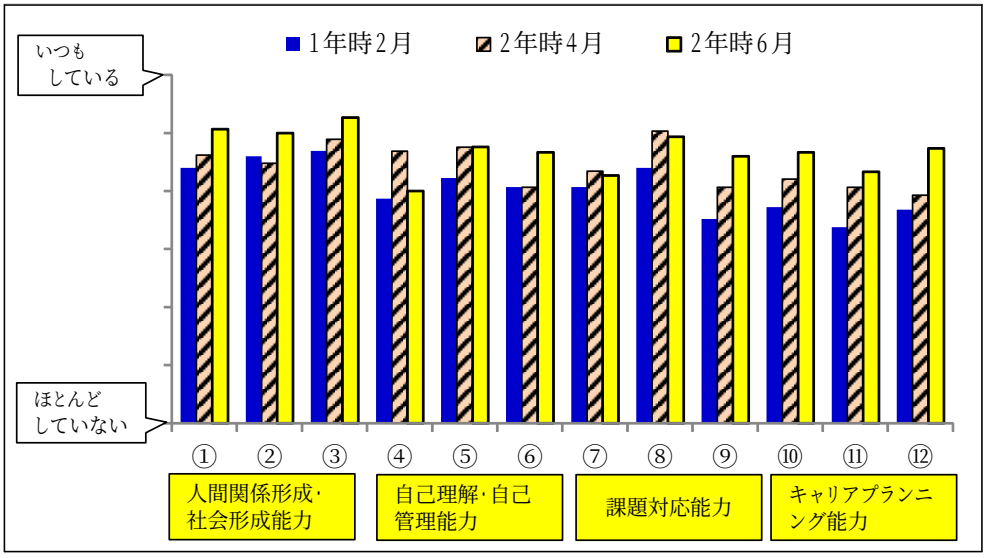
本校では、キャリア教育を構想するにあたってアンケートを実施してきたので、アンケート結果から若干の考察を行う。

本アンケートは、「キャリア教育の手引き」（文部科学省）ｐ64～65をもとに作成したものであり（資料２）、中学２年生については、修学旅行を中核とした取組成果を評価するため、「１年時の２月」、「２年時の４月」、「２年時の６月（修学旅行後）」の３回、同じアンケートを実施している。その結果が資料３である。

資料２　キャリア教育アンケートの内容項目（１２項目）

① 友達や家の人の意見を聞くとき、その人の考えや気持ちを受け止めようと考えながら聞いていますか。
② 相手が理解しやすいように工夫しながら、自分の考えや気持ちを伝えようとしていますか。
③ 自分から役割や仕事を見つけたり、分担したりしながら、周囲と力を合わせて行動しようとしていますか。
④ 自分の興味や関心、長所や短所などについて把握しようとしていますか。
⑤ 気持ちが沈んでいるときや、あまりやる気が起きない物事に対する時でも、自分がすべきことには取り組もうとしていますか。
⑥ 不得意なことや苦手なことでも、自ら進んで取り組もうとしていますか。
⑦ 分からないことやもっと知りたいことがある時、自分から進んで資料や情報を収集したり、誰かに質問したりしていますか。
⑧ 何か問題が起きたとき、次に同じような問題が起こらないようにするために、何をすればよいか考えていますか。
⑨ 何かをする時、見通しを持って計画的に進めたり、そのやり方などについて改善を図ったりしていますか。
⑩ 学ぶことや働くことの意義について考えたり、今学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考えたりしていますか。
⑪ 自分の将来について具体的な目標を立て、その実現のための方法について考えていますか。
⑫ 自分の将来の目標に向かって努力したり、生活や勉強の仕方を工夫したりしていますか。

資料３　キャリア教育アンケートの結果（２年生）



○　能力別に見てみると「人間関係形成・社会関係能力」は比較的高い。これは、小学校における取組成果により、コミュニケーション力等が高まっているものと考えられる。

○　ほとんどの項目において、取組が進むにつれて値が伸びていることから、本実践は、子どもたちのキャリア発達において一定の効果があると考えられる。

○　値の伸び幅は大きいものの、全体的に「キャリアプランニング能力」が低いことが分かる。中学３年時になると進路選択も必要となることから、３年時につながる取組の中で、将来設計や自己実現などに関する学習内容の充実を図っていく必要がある。

中学生による地域社会づくりへの参画！
－「子ども議会」に向けた系統的な取組を通して－

美郷町立南郷中学校（美郷南学園）

1　学校や生徒の状況

・農業や林業を基幹産業とする県北部の中山間地に立地
・南郷区の小・中学校が１つになった一貫校
・「美郷科」を小中学校を通じて実施
・本校卒業後は、全員が町外に進学
・生涯にわたって自分の力で学び、積極的に努力や工夫をしながら豊かに生活していく資質や能力の育成が必要

2　活用したい教育資源

・地域の豊かな自然や産業、特産品
・特色ある歴史や文化
・地域の産業や行政に携わる職業人
・国際交流員や韓国の姉妹校との交流
・異学年の児童生徒との交流
・美郷町議会

3　本校におけるキャリア教育の構想

自分の夢や目標の実現のために見通しをもって臨み、その実現に向かって積極的に努力・工夫する児童生徒を育成するためのキャリア教育を推進する。

前期ブロック

○　自分や友だちのよさを認める
□　仕事に責任をもつ
◎　分からないことを調べる
■　将来の夢や希望をもつ

中期ブロック

○　他者のよを理解、尊重する
□　学習における課題の解決方法を工夫する
◎　体験活動で得たことを学習や進路に生かす
■　学んだことと、生活や職業との関連を考える

後期ブロック

○　積極的な人間関係を築く
□　進路実現のため、困難の克服に努める
◎　自己の生き方や美郷町の将来への提言を考える
■　将来の生き方を考える

主な学習素材

地域の未来と将来の自分
産業や生活と自分
歴史や伝統と自分
自然・環境と自分

1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年

4　実践事例の概要（特色、位置付け）

本校は、南郷の全小・中学校が１つになった幼小中一貫校です。一方、町内には高校がないため、子どもたちは中学校卒業後は全員が町外の高校へ進学していきます。

そこで、南郷という地域をフィールドとした学びについては、９年生（中学３年生）における「子ども議会での提言」を１つのゴールとして設定し、そのゴールへつなぐ教育活動をキャリア教育として展開しています。

本事例では、美郷町独自の内容である「美郷科」におけるキャリア教育の構想や９年生が行う子ども議会の位置付け、そして、その提言に向けた系統的な実践の内容を紹介していきます。

子ども議会での一般質問

5　「美郷科」におけるキャリア教育

(1)「美郷科」の創設

本町独自の学習内容として構成されている「美郷科」は、美郷町の誕生から間もない平成２０年、構造改革特区の認定を受けてスタートした新教科である。美郷と自分に対する自信と誇りを育むとともに、美郷の未来と自分の生き方を結びつけ、生涯にわたって美郷町を愛する心と態度を育てるため、小・中学校を通して美郷町の自然・環境、伝統、産業、生活等について系統性・一貫性をもって学ぶ教科であるが、美郷科の学習には主として次のような意義があり、キャリア教育としての役割も大きい。

○　教育の質の向上　……　小中学校９年間の「学び」の連続性
○　ふるさと学習の推進　…　美郷町の教育資源を活かした教育課程編成
○　キャリア教育の推進　…　地域をとおした「自分さがし」

(2) 美郷科の目標等

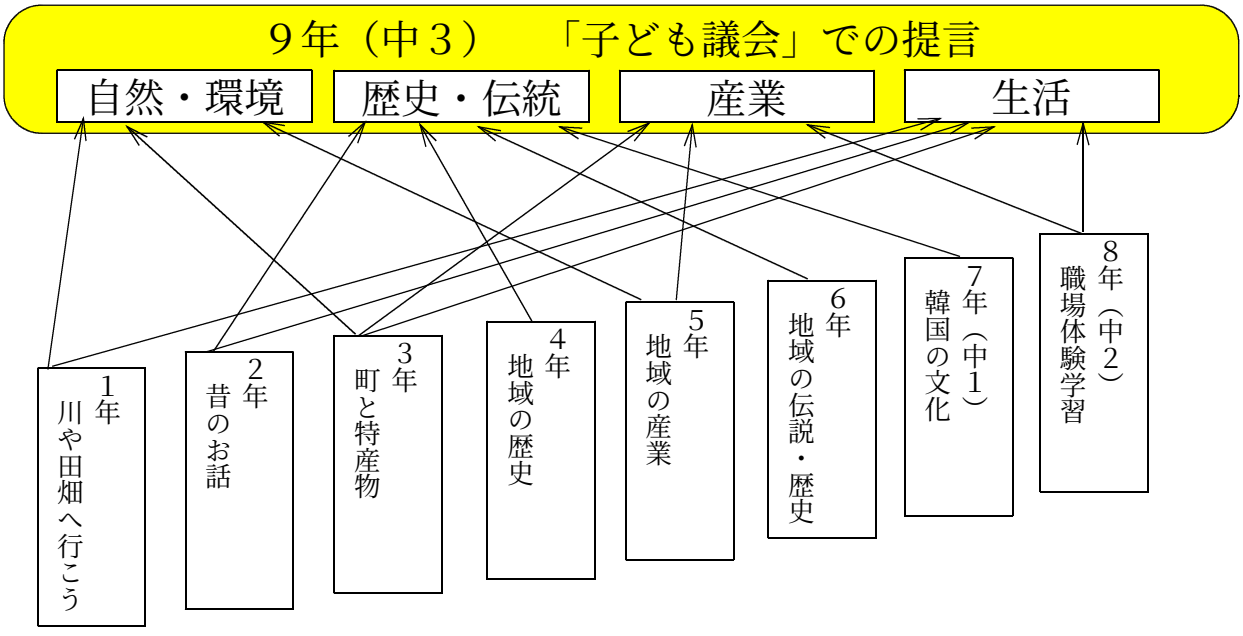
美郷科は、次のような構想のもとに実施している。

■「美郷科」の目標
①　美郷の教育資源をもとに、系統性・一貫性をもって学ばせる。
②　美郷への理解を深め、美郷と自分に対する誇りを育む。
③　美郷の未来と自分の生き方を結び付け、生涯にわたって美郷を愛する心と態度を育てる。

■「美郷を担う」「世界にはばたく」人材
①　美郷の現状を理解し将来の美郷について深く考えることができる子ども
②　将来の美郷で活躍する人材
③　町外で活動する中でも心の中心に「美郷」がある人づくり

■「美郷科」実施にあたって･･･
①　学習素材についての直接体験などの体験活動を必ず行うようにする。
②　体験活動などでは地域の方々と「ふれあう」「交流する」「聞き取る」「意見交換する」などの学習活動を位置付け、地域の方々の思いや願いについて深く考えることができるようにする。
③　地域の方々の思いや願いについて考えることをとおして、地域と自分とのかかわりや自分の生き方について考えていくことができる。

(3) 美郷科における主な学習内容の系統



6　９年生で行う「子ども議会」とは

(1) 子ども議会の概要

「子ども議会」は、９年生（中学３年生）の「美郷科」（通常のカリキュラムとしては総合的な学習の時間）において、本校であれば「南郷の施策を提言しよう！」という単元名で実施している学習活動である。

小学校から積み上げる９年間の学習の総まとめとして、「美郷科」カリキュラムの最終段階として位置付けており、子どもたちの社会参画意識やキャリア発達を促すため、平成２２年度からは、実際の町議会議場において、町長をはじめとする町行政執行部の方々にも参加していただきながら実施している。

具体的には、現実の「地域の課題」の解決策について、子どもたちが探究してきた結果をもとに提言を行い、「町長への一般質問」という形態をとりながら政策提言をプレゼンテーションするものである。そこには「地域の特長」、「地域の課題」、「現実の社会で課題解決と向き合っている地域の方々の思いや願い」などからの子どもたちの学びが凝縮されている。

(2) ９年生における学習の流れ

① 追究課題の設定（５月）
⬇
② 課題の探究（６月～９月）
⬇
③ 提言内容の構築（１０月）
⬇
④ 提言内容の吟味（１１月）
⬇
⑤ 子ども議会（１２月）

(3) 「子ども議会」当日の流れ

① 開会宣言
② 議会の進め方についての説明
③ 一般質問

一般質問
↓
答　　弁
↓
提　　言

×　（町内３中学校）９グループ程度

④ 閉会宣言
⑤ 教育長講評

事前練習のようす（ブロック別集会）

議場のようす

一般質問のようす

提言内容例

他班の提言を聞く生徒たち

7　「子ども議会」での提言例

(1) 提言１「シルバーフェスタの開催」

提言の内容

シルバーフェスタを開催する

- 文化①　年１回の舞台鑑賞の機会を設ける
  地元の劇団や地区の子どもによる演劇など
- 文化②　高齢者のど自慢大会開催
- 市場　高齢者作成の農産物、加工品等の販売
- スポーツ　高齢者によるスポーツ大会の実施
  年２回、地区対抗で行う

文化　スポーツ　市場

→ シルバーフェスタ

提言構築までの探究内容

課題と向き合う地域の方々の真剣な姿

■　商工会議所の方の話
　高齢者の方々を助けたい。そのため、おかずの訪問販売や日用品の配達をしている。訪問した時には話し相手となり、高齢者の方の孤独感を和らげたい。

■　デイサービスの方の話
　季節の変わり目に利用者の方が病気にならないよう衛生面を特に気をつけている。
　また、利用者の方に事故がないように細心の注意を払っている。

地域の願い

高齢者が生き甲斐を感じながら、生活することのできる町にしたい。

地域の課題

- 県内の市町村で最も高齢化が進んでいる。
  （６５歳以上の高齢者の割合が４３％）
- 高齢者と触れ合う時間が少ない。
- 一人暮らしの高齢者が増えている。
- 高齢者だけの世帯が増えている
- 高齢者が楽しめる場や行事が少ない。

１～８年生での学び

８年生
職場体験学習をとおして地域の産業を考えよう！（美郷科）
　診療所や特別養護老人ホームでの体験を通しての学習

６年生
地域の伝説や祭りを守り伝える人々（美郷科）
　西の正倉院ボランティアガイドや師走祭り百済の里づくりを推進する方々との触れ合いを通しての学習

４年生
地域の歴史・おどりの歴史を守る人々（美郷科）

高齢者との交流

←診療所にて

老人ホームにて→

(2) 提言２「農業体験プロジェクト」

提言の内容

農業体験プロジェクトの実施

- 季節に合わせた農業体験の実施
  - 春…山菜採り、茶摘み、種まき、コマ打ち
  - 夏…田植え、梅拾い、夏野菜収穫
  - 秋…稲刈り、芋掘り、栗拾い
  - 冬…葉野菜収穫、椎茸収穫
- 美郷町の特産物を使った料理教室の開催
  - 南郷特産…南高梅を使った和風パスタ
  - 西郷特産…栗を使ったマロンケーキ

提言構築までの探究内容

課題と向き合う地域の方々の真剣な姿

■ 美郷町の取組
美郷町農林業担い手対策事業
農地の有効活用と耕作放棄地対策

地域の願い

- 若者にふるさとに帰ってきてもらい、農業を継いでもらいたい。
- 特産品を県外にもアピールして、売り上げを上げたい。

地域の課題

- 農業従事者の減少と高齢化
  （農業従事者６５歳以上の割合が３０％を越える。）
- 農業後継者の不足
- 農作物の売り上げ価格の伸び悩み

１～８年生での学習

８年生
職場体験学習をとおして地域の産業を考えよう！（美郷科）
地域の農家の方々のもとでの体験を通した学習

５年生
地域の産業を支える人々（美郷科）
- 南高梅と美郷町
- 南高梅の加工体験
- 南高梅についての発表

田植え体験のようす

南高梅の加工体験→

(3) 提言３「神門 one coin 商店街」

提言の内容

神門 one coin 商店街の設置

- 空き店舗の利用
  空き店舗などを利用して「100円」・「500円」の商品を販売する。
- 特産品の販売
  地産地消の特産品を販売する。
  ・北郷…備長炭
  ・西郷…栗
  ・南郷…南高梅
- 月に２回の実施
  祭りや行事がある時は、それに合わせて開催する。

提言構築までの探究内容

課題と向き合う地域の方々の真剣な姿

■ 南郷区商工会の方々
地域の少子高齢化や人口減少、空き店舗の増加による地元で買い物をする人の現象などを食い止める取組

地域の願い

- 地域を活性化したい。
- 観光客にたくさん来てもらいたい。
- 特産品をたくさん売って、売り上げを上げたい。

地域の課題

・南郷区商工会会員の減少（後継者不足）
平成２０年度　７３名
平成２３年度　６３名　→　５年間で２０％減少
平成２５年度　６０名
・商工業の衰退、閉店舗の増加

１～８年生での学習

８年生
職場体験学習をとおして地域の産業を考えよう！（美郷科）
地域の事業所での体験を通した学習

３年生
町の特産物を支える人々（美郷科）
・特産品直売所「いっつもや」の見学
・事業所「鬼神グループ」の見学

販売店での職場体験のようす

温泉での取材を終えて

3年　ふるさとから世界へ　世界からふるさとへ！

－「北方干支のまちフェスティバル」への参画－

延岡市立北方学園

1　学校や生徒の状況

○　平成26年4月に小中一貫校として再編された。旧4小校区地域のコミュニティスクールとしての存在が求められる。

○　純朴で素直であるが、積極性を高め、視野を広げた上で地域を見つめ直したり、地域社会に参画していく資質を高めたりする必要がある。

2　活用したい教育資源

北方の宝

ひと＝地域の産業人
　　先輩、高齢者
もの＝地場産業、自然
　　伝統芸能、
空間＝史跡、地域の歴史
　　地域のイベント

➡ 地域外で活躍する人材
⬅ 県外での体験活動

3　本校におけるキャリア教育の構想

北方の伝統を継承しつつ、北方の発展に積極的に参画しふるさと北方を創造する児童生徒の育成

地域社会を再認識する体験的な学びを通して、幅広い人間関係を築いたり、高い志をもって将来の自己実現や社会貢献に向けて努力したりする態度や能力を育成する。

小１・２	小３・４	小５・６	中１	中２	中３
北方町のよさを見つける・調べる。	北方町のよさを調べる・追究する。	北方町のよさを追究する・伝える。	北方町の人の想いに触れ、北方を再発見する。	北方町を体感し、発信し、見つめ直す。	北方町の未来を創造する。
北方の宝「ひと・もの・こと」					

4　実践事例の概要（特色、位置付け）

本校キャリア教育の集大成である、中学３年生における「北方干支の町フェスティバル」の取組を紹介します。

子どもたちは、小学校において「北方のよさを見つけ、調べ、追究し、伝えて」きたことを、中学１年では地場産業体験など地域での活動を通して、「地域の方の想いに直に触れながら再発見」します。中学２年では職場体験などを通した体感的な理解を踏まえ、「ふるさと北方を県外（沖縄修学旅行）でトップセールス」しながら、再び見つめ直します。こうして高まった地域社会への理解や想いを土台に、中学３年では「ふるさと北方を創造する」取組を行いました。

干支のまちフェスティバルの様子

5　小学校から中学２年生までの取組の概要

中学校３年　ふるさと北方の創造！　「北方干支の町フェスティバル」の取組

中学２年

職場体験学習

地場産業に携わる地域の方々の想いを体感した２年生は、北方町外の事業所で職場体験を行うことで、面識のない方とコミュニケーションをとるためのスキルを学んだ。販売の仕事に限らず、人との関わりの中で「分からないことや困ったこと」など自分の想いを相手に上手に伝えるためにはどうすればよいのか学んだ。

トップセールス

本来は、企業や自治体のトップがＰＲ活動を行うことを意味する。本活動では、１年生時の地場産業体験に加え、２年生での職場体験学習で学んだ延岡市の産業や特産品についての理解を踏まえ、北方の代表として県外でふるさとの情報発信を行うという自覚と誇りを意識するために「トップセールス」というネーミングにした。

北方・延岡の「ひと・もの・空間」だけではなく、「福島・磐城と延岡」両藩主を務めた内藤家によるいわき市と延岡市のつながりや、延岡市の企業と北方に企業誘致を行った川並氏による延岡市と北方町のつながりなど、生徒の身の回りには「ひと・もの・空間」による様々なつながりや広がりがあることを学び、視野を広げた。また、自分の学んだことを見知らぬ人にどのように伝えるかや、人と関わることの難しなどの課題を、ＰＲ活動の中においてチームとして解決していく学びも経験した。

中学１年

地場産業体験

北方の特産品や地場産業品に関わる勤労体験を行うことにより、これまでは知識や情報として認識していた北方（ふるさと）について、特産品を生産している方の想いに触れながら体感・再認識させた。つまり、「見慣れた景色や日常の生活などの普段の北方」を、新たな視点から多角的・多面的にとらえていく能力を身に付けさせることを活動のねらいとした。その上で、「北方の特産品をさらに広く発信するための方策」や「６次産業化をキーワードにした北方の特産品の販路拡大」などについて、新たな課題を見いださせた。

小学校

５・６年

ボランティアグループの方々との「稲作体験」や「五ヶ瀬川の観光開発プロジェクト」を通して、北方以外の人との関わりからふるさとのよりよい未来を追究する力や、北方のよさを伝える活動による情報発信能力の育成に取り組んだ。

３・４年

地域の方々との「郷土料理作り体験」や「農業体験」を通して、地域のよさを実感しながら見方や考え方を広げるとともに、もっと知りたいという追究意欲を高めた。

１・２年

保護者や近所の方々の協力を得ながら、季節によって移り変わる「北方まち探検」を通して、年間を通したいろいろな北方の姿を見つけたり、保護者以外の「ひと」との関わりを体験したりする中で、自分から新しいことを発見し、積極的に人間関係の広がりをつくっていく態度を育成した。

6　中学３年生の取組

ふるさと北方を創造する！「北方干支の町フェスティバル」への参画

これまで取り組んできたことの整理・分析

■　これまでに発見してきた「ふるさと北方の姿」そしてこれまで関わってきた地域の方々の想いを整理しよう。

（人口の割合「2040年問題」）

2014年現在	0～14歳	15～64歳	65歳～
北方町	10.0%	51.1%	38.9%
宮崎県	13.8%	59.5%	26.7%
全国	13.0%	62.9%	24.1%
2040年推測値	**11.1%**	**54.8%**	**34.1%**

北方町では日本の課題が20年早く現実的に出現している。2040年に訪れると予想されている超高齢化社会や、完成間近の北方道路がもたらすストロー現象などは、北方町の将来を左右するものであり、こうした現状と、地域の方々の願いや想いを踏まえながら、ふるさと北方の将来を「今」考えなくては手遅れになってしまう。

課題の把握　①

■　地域活性化のために自分たちにできることを考えよう。

現実的課題として見えてきたものは、「限界集落」から「極限集落」へと移行しかねないの北方の将来像や、高速道路開通による「通過都市化」「ストロー現象による人口減少への拍車」などへの懸念である。では、北方町をこれからも残し、活性化するにはどうすればよいのかを考える。

視点１　地域の「よさ（宝）」を最大限に生かす
視点２　地域の方々と協力する
視点３　これからの社会を生き抜くために必要となる力を高める

課題の追究　①

■　北方町最大のイベント「干支の町フェスティバル」に北方学園として参画しよう。
－フェスティバルにかける「想い」を「カタチ」にするための取組考案－

○ 北方学園干支の町フェスティバル実行委員会の開設

総合的な学習の時間を核に11月に行われる干支のまちフェスティバルに向けて実行委員会を発足し、３年生がリーダーとなる学年縦割りのチームを編成する。

○ 北方干支のまちフェスティバル推進協議会への参加

フェスティバル推進協議会発足式に、生徒・職員代表が参加し、フェスティバルへの実行委員としての参加を承認してもらう。

○　フェスティバルの企画（内容考案）

・　「宣伝広報」「テント１」「テント２」「テント３」「ステージ」の各チームで活動を開始。
・　３年生のリーダーを中心に内容を考案。

これまでの学び
地域の方々の想い

まとめ　①

■　「干支の町フェスティバル」を創造しよう。
　考案した内容を、ミッションとしてまとめる。

役割の自覚

チーム	ミッション
広報宣伝	ＰＲの在り方について学んできたことを踏まえ、多くの人たちの参加につながるよう、干支の町フェスティバルのＰＲ活動を行う。
フード	北方の宝である農産物を生かした食事を提供し、北方のよさを「食」の視点からＰＲする。
スイーツ	柿や桃など北方の地場産品スイーツとして販売する。６次産業化をイメージしながら、新しい北方の特産品を考えてＰＲする。
ゲーム	「子どもがいる＝元気が出る」という地域活性化の基本をコンセプトに、地域の将来を担う子どもたちが集まる内容を考える。
ステージ	これまでの学びを踏まえ、来客のニーズを意識しながら中学生の目線から北方をＰＲするためのステージプログラムを考える。

課題の把握　②

■　チームのミッションを達成するための取組を企画しよう。
　３年生が中心となって、１・２年における学びの成果も取り入れながら、チームのミッションを達成するための具体的な取組内容を考える。

○宣伝広報チーム
・干支フェスチラシ作成・配布
・新聞ラジオ等への広報活動
・店頭での宣伝活動
・来場者16000人を目指す（前年比3000人増）

○フードチーム
・北方の食材にこだわったカレー（北方カレー）
・ポテトを使ったファストフード（コロコロポテト）

○スイーツチーム
・干支焼き饅頭、延学プリン、
　チョコバナナ、ソフトクリーム

○ゲームコーナーチーム
・自家製おもちゃの販売
・子どものためのフリーマーケット
・子どもが楽しめるゲーム（手作りモグラたたき、スーパーボールすくい）

○ステージチーム
・ゆるキャラダンスショー、
・つながる三北コラボ（北川中吹奏楽部・北浦中ソーラン節演舞）、
・未来のミュージシャンミニコンサート、
・九保大エイサー・ダンスチーム

課題の追究　②

■　見えてきた「新たな課題」に対するチームとしての対応

取組を進める中において見えてくる様々な課題について、それを克服するための対応を考える。

○　宣伝広報チーム

・学校外におけるＰＲ活動をどうするか。
・想いを効果的に伝えるチラシをどう制作するか。
・マスコミを活用したいが、どのように関われればよいのか。

○　フード・スイーツ・ゲームコーナーチーム

・赤字にならないようにするために大事なことは何か。販売価格はどのように設定すればよいのか。どれくらい準備すればよいのか。
・自分たちだけでは作る数に限界がある。協力依頼が必要だがどう動けばよいのか。
・スイーツは、材料の無償提供が難しく仕入れにお金がいる。どうすべきか。
・「やってみたい」といった興味本位のレベルでは、出店できるものではない。
・手作りおもちゃの制作・販売には様々な法律や権利がかかるし、お客からお金を取れるほどのものができそうにない。フリーマーケットの品物集めも難しい。

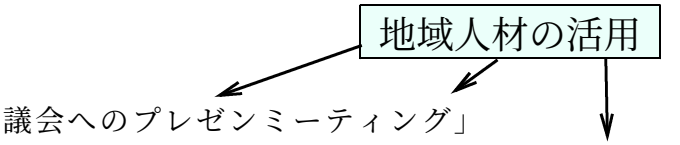
○　ステージチーム

・三北コラボにおける学校間の調整が難しい。北方中以外の二校とどう調整するか。
・出演料なしでの依頼は企画する側もやりにくい。イベントにはお金がかかる。

工夫・改善

■　学校外の人材や資源を活用しよう

「干支のまちフェスティバル推進協議会へのプレゼンミーティング」



上述の課題を発展的に解消していくため、各チームごとに企画内容と進捗状況を報告し、「社会人の視点」からアドバイスを受ける場面を設定した。

課題となっていた材料調達や仕入れと売り上げの関係など、改善につながるアドバイスやさらなる改善のための指摘を受けた。

プレゼンミーティングの様子

まとめ・表現　②

■　これまでの活動の成果を発揮しよう。

これまでの取組により、フェスティバルの開催において次のような成果等が得られた。

○　**宣伝広報チーム**

前日までテレビ・新聞・雑誌などで宣伝活動を行い、大型ショッピングセンター等での広報活動を行った。

当日は、運営の裏方として、ゴミ分別やトイレ清掃、会場案内などにあたった。

広報活動の様子

当日の活動の様子

○　**フードチーム**

　カレー約３００食とコロコロポテト１５０食を２時間余りで完売した。

○　**スイーツチーム**

　衛生法や行商権など、様々な規制のため当初の計画通りには進まなかったが、仕入れることができた干支焼き饅頭や、ソフトクリームを完売することができた。

○　**ゲームコーナーチーム**

　スーパボールすくいに子どもたちの列ができ、手作りのもぐらたたきに歓声が上がっていた。

○　**ステージチーム**

　午前・午後の２回にわたる北方学園プロデュースのステージは、生徒による司会も手伝って大いに盛り上がった。

振り返り

■　これまでの活動を振り返り、学んだことや習得したことを、次の北方学園の活動に生かそう。

北方サミットの開催

　これまでの活動を踏まえ、生徒、保護者、地域の方々、行政関係者の参加によるパネルディスカッションを開催し、今後の活動の方向性を確認しながら「北方町が１つになる」機会とした。

　２０４０年、日本は超高齢化社会を迎えるとともに、人口は１億人弱に減少し、消滅可能性都市が９００近くになるとも言われている。

　そのような中、このサミットは、北方町の将来のために、「地域は何をすべきなのか」、「今、北方学園で学んでいる児童・生徒は何ができるのか」、「２５年後に何をするのかではなく、２５年後の北方町に対して今、何ができるのか」について、北方町が一つになって考える機会となった。

　本校では、このサミットを毎年の活動の最終場面に位置付けることで、１年間の活動の成果と課題を確認したり、次年度の活動の方向性を北方町の住民と生徒が一体となって共通理解したりすることが可能となり、子どもたちが自分たちのふるさとの未来を本気で考えることを通して、キャリア発達を促進していけるのではないかと考えている。

　今回、児童生徒が体験を通して考えてきた一連の活動が、今後も「持続可能な活動」としてそれぞれの生き方の中に発展的に継承されていくことを願っている。児童・生徒たちには、２０４０年の自分自身の役割や生き方を具体的にイメージ（キャリアプランニング）しながら、ふるさの伝統の継承やよりよい社会づくりに参画し、ふるさとを創造する社会人・職業人になってもらいたい。

全学年　三年間を通した職場体験のスパイラル！

― 全学年において実施する職場体験を通して ―

日向市立岩脇中学校（平岩小中学校）

1　学校や生徒の状況

○　平成１８年に小中一貫校として開校。各学年１クラスの小規模校である。

○　仲のよい人間関係が形成されているが、自分に自信のない生徒や消極的な生徒も見られる。

○　やる気をもって行動し、夢をもって前向きに学習できる生徒の育成が必要である。

2　活用したい教育資源

○　学校支援地域本部事業

○　日向市内の事業所

○　日向市「企業による出前授業」

○　日向市キャリア教育支援センター

○　宮崎県アシスト企業

3　本校におけるキャリア教育の構想

育成すべき能力や態度（基礎的・汎用的能力）

人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
○　相手が理解しやすいように自分の考えや気持ちを伝えることができる。	○　どんな時でも前向きな気持ちで頑張ることができる。 ○　苦手なことでも進んで取り組むことができる。	○　疑問点を積極的に調べようとすることができる。 ○　計画的に物事を進め、状況に応じて対応することができる。	○　将来に向けて努力し、生活や勉強を工夫することができる。

各ブロックの指導目標

前期ブロック（小１～小４）	中期ブロック（小５～中１）	後期ブロック（中２・中３）
○　自分のよさを生かした学習や活動を行おうとする態度を育てる。 ○　自分の役割を果たそうとする意欲をもたせる。 ○　自分の将来に興味をもたせる。	○　自分や友だちの良さを生かし、よりよい生活を築こうとする態度を育てる。 ○　集団の一員としての役割を理解し果たそうとする。 ☆　働くことの大切さ・喜びを理解し、進んで学び、仕事をする態度を育てる。	☆　自分の言動が他者に及ぼす影響について考え、積極的に人間関係を築こうとする。 ☆　社会の一員としての自覚を持ち、自分らしい生き方について考える。 ☆　様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える。 ☆　日常生活・学習と将来の生き方との関係を理解し、進路選択の能力を高めさせる。

4　実践事例の概要（特色、位置付け）

本来は５日間連続の職場体験学習が望ましいですが、本校では２日連続の体験を３年間実施することによって、中学校３年間で６日間の体験学習を行っています。

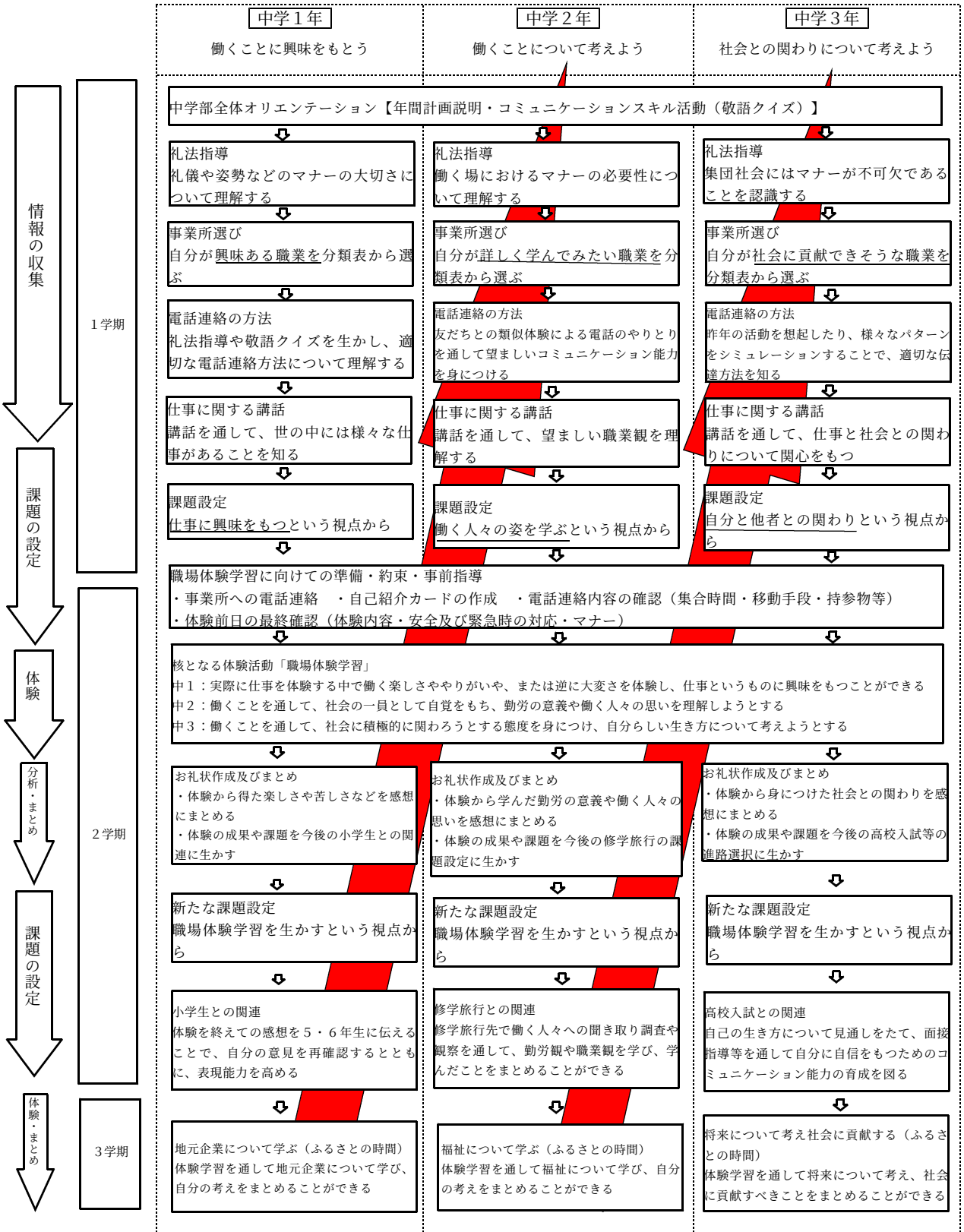
中学一年　働くことの楽しさや大変さを実感

中学二年　働くことの意義や目的を実感

中学三年　働くことで社会との関わりを実感

5　職場体験学習を中心とした総合的な学習の時間の構想図

本校では、各学年の総合的な学習の時間において、職場体験学習を核となる体験活動に位置付けている。３年間で６日間の職場体験学習を実施するにあたり、そのねらいを学年ごとに変えることで、自分自身の成長を感じることができるよう工夫している。



6　中学１年生における職場体験学習

(1) 職場体験学習のねらい

実際に仕事を体験する中で働く楽しさややりがい、また逆に大変さを体験し、仕事に対する興味をもつことができる。

駅

(2) 事業所選び

自分が興味ある職業を分類表から選ぶ。

(3) 課題設定

仕事に興味をもつという視点から自分の課題を設定する。

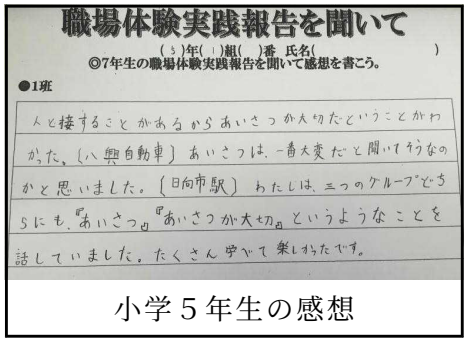
(4) 職場体験学習のまとめ

体験から得た楽しさや大変さなどを感想にまとめ、成果や課題を小学５・６年生に報告する機会をもつなど、小学生との関連に生かす。

(5) 小中一貫教育を生かした取組

本校は小中一貫校であることから、中期ブロック（小５～中１）において、職場体験学習報告会を実施している。この取組は、中学１年生が初めての職場体験学習で得たことを、小学５・６年生に伝えることにより、働くことの楽しさや大変さを再確認するとともに、本校の重点課題であるコミュニケーション能力を育成することもねらいとしている。

事前指導の段階で発表方法（模造紙・レポート・プレゼン）を生徒に選択させ、各班ごとにまとめた後、発表練習を重点的に行った。また、小学５・６年生の感想を見直すことで、次年度以降の職場体験学習に生かすように指導をした。


職場体験実践報告を聞いて

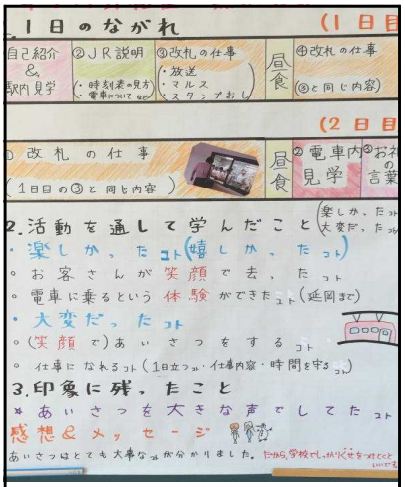
（　）年（　）組（　）番 氏名（　　）

◎7年生の職場体験実践報告を聞いて感想を書こう。

●1班

人と接することがあるからあいさつが大切だということがわかった。（ハ興自動車）あいさつは、一番大変だと聞いてそうなのかと思いました。（日向市駅）わたしは、三つのグループでどちらにも、『あいさつ』『あいさつが大切』というようなことを話していました。たくさん学べて楽しかったです。

小学５年生の感想



発表に使用した模造紙

発表を聞く５・６年生

生徒にとっては初めての職場体験学習であるため、職場体験学習が緊張の連続になってしまうこともあり得る。そこで、中学１年生の不安を取り除くために、次のような手立てや指導を行っている。

○　同一の事業所に、複数の中学生を配置している。

○　希望状況等により、どうしても中学１年生が１人になってしまう場合には、必ず他の上級生と一緒に体験できるようにする。

○　体験活動での学びを今後に生かしていくため、楽しかったことだけでなく大変だったことについても、しっかりと自分なりに整理させる。

○　来年以降の職場体験学習につないでいくために、まとめの学習で、学級担任と副担任とが、自分が教師になったきっかけ等を話す場を設ける。

7　中学２年生における職場体験学習

(1) 職場体験学習のねらい

働くことを通して、社会の一員として自覚をもち、勤労の意義や働く人々の思いを理解しようとする。

(2) 事業所選び

自分が詳しく学んでみたい職業を分類表から選ぶ。

(3) 課題設定

働く人々の姿を学ぶという視点から自分の課題を設定する。

農家

(4) 職場体験学習のまとめ

体験から学んだ勤労の意義や働く人々の思いを感想にまとめ、成果や課題を修学旅行における学びに生かす。

新聞社

保育園

職場体験と修学旅行との関連は、次のような流れとしている。

事前学習：修学旅行先で働く人々をしっかり見学しよう。

↓

修学旅行：働く人々がどのように社会に貢献しているのだろう。

↓

事後学習：働く人々が社会に貢献していることを発表しよう。

事前学習→体験学習（修学旅行）→事後学習という流れを通して、中学３年生の職場体験学習のねらいである、「働くことを通して、社会に積極的に関わろうとする態度を身に付け、自分らしい生き方について考えようとする。」につなげていく。

生徒にとっては２度目の職場体験学習となる。１年時の反省を生かすとともに３年時の集大成につなげていくため、次のような手立てや指導を行っている。

○　下級生に対する指導的立場として取り組むことができるように、可能な限り中学１年生と一緒に体験活動が実施できるように配慮する。

○　生徒の希望等により、上級生と共に活動する場合には、積極的に上級生から学んでいく姿勢で体験できるようにする。

○　修学旅行での見学地や班別研修などで訪れる企業や働く人々の姿を見て、職場体験学習で学んだ職業の意義ややりがい、苦労などを想起させる。

○　中学３年生における職場体験学習に生かしていくために、まとめの学習では事業所の方からの手紙やアンケートを活用し、課題点を確認する。

8　中学３年生における職場体験学習

(1) 職場体験学習のねらい
　働くことを通して、社会に積極的に関わろうとする態度を身につけ、自分らしい生き方について考えようとする。

(2) 事業所選び
　自分が社会に貢献できそうな職業を分類表から選ぶ。

(3) 課題設定
　自分と他者との関わりという視点から自分の課題を設定する。

(4) 職場体験学習のまとめ
　体験から身につけた社会との関わりを感想にまとめ、成果や課題を高校受検等の進路選択に生かす。

消防署

高齢者施設

洋菓子店

高校受検に関する面接指導に地域ボランティアの方々を活用する取組は、本校が本格的にキャリア教育を進める以前から、学校支援地域本部事業の一つとして実践してきたものである。現在は、「職場体験学習で身に付けたコミュニケーション能力や社会貢献への意識を、今後の進路選択に生かす」視点から、面接官から学んだことを着実に自分のものにし、明確な進路選択につなげていけるよう指導している。

生徒にとっては中学校生活最後の職場体験学習になる。そのため、３年間の集大成という気持ちで取り組んでいけるように、中学３年生に次のような手立てや指導を行っている。

○　自分の行動に責任をもつことができるように、可能な限り１人で体験活動を行うように配慮する。
○　生徒の希望等により複数になってしまう場合には、下級生に対して模範となるような体験活動にしていくようにする。
○　高校入試の面接等に生かすことができるように、体験の合間には積極的に大人の方々とコミュニケーションを図るようにし、自分のことを話す機会とする。
○　中学校生活において、３回もの職場体験学習を経験したことは貴重であることを理解させるとともに、卒業後社会に出たときに大きな財産とできるよう、自分に自信をもって何ごとにも努力していけるよう、指導を行っていく。

9　横の連携を生かしたキャリア教育

(1) 地域コーディネーターとの連携

本校がキャリア教育を進めていく中で、地域人材の活用は非常に大きな教育的効果を挙げている。小中一貫校である強みを生かし、次のような場面において、地域人材の活用を推進している。

○　入学間もない小学１年生への下校見守り
○　交通安全教室で児童生徒の交通指導の補助
○　「放課後学習教室」における児童の世話
○　朝読書の時間の読み聞かせ
○　校外美化活動で児童生徒と共に行う清掃
○　中学３年生の高校入試に向けた面接指導

中学３年生への面接指導の様子

上記の活動では、地域ボランティアの方々の存在が大きいが、この方々と職員との連絡調整を行っているのが地域コーディネーターである。地域コーディネーターは、連絡調整のみならず実際の学習支援にも携わることで、日頃から児童生徒と向き合っていただいており、本校生徒の支援に絶大な役割を担っていただいている。

(2) 日向市キャリア教育支援センターとの連携

日向市では、学校と企業や地域とを結び、職場体験学習や社会人講師派遣事業などの取組をサポートし、小中高の１２年間を一貫したキャリア教育を進めていくため、平成２５年にキャリア教育支援センターが開所された。

日向市キャリア教育支援センター

また、「日向の大人はみな子どもたちの先生」を合言葉に、働く大人が子どもたちに語る場を設けるという趣旨のもと、今年は「よのなか教室」が運営されている。現在、市内の小・中・高等学校において、「よのなか教室」の取組が実践され、学校に話し手（講師）の方を招いた講話等が行われている。

仕事についての講話

本校では、昨年度までの企業人講話については、県のアシスト企業を積極的に活用し、大きな成果を上げてきた。今後は、日向市の「よのなか教室」の活用として、３学期に小学５・６年生を対象に実施する「仕事についての講話」において、「よのなか教室」を活用していくことにしている。

「よのなか教室」の実施方法
①　小学５・６年生の児童に自分が聞いてみたい興味や関心のある事業所等をアンケート調査によって確認する。
②　希望者の数や当日の授業日に実施可能かどうかの確認をした上で、話し手（講師）を３つに絞り込む。
③　授業実施日当日は、まず全体の講話を行った後に、児童の希望等を考慮した上で３グループに編成し、それぞれのグループで座談会式の討議を行う。

今年度は小学５・６年生のみの計画だが、中学生についても「よのなか教室」の活用を拡大しながら、アシスト企業の活用と合わせて横の連携を強化していきたい。

特に、地元で活躍をしている職業人の方々から将来の生き方について学び取り、地域に貢献していきたいと考える生徒を育成していきたいと考えている。